



日本酸素ホールディングス

日本酸素ホールディングス株式会社

2021年3月期 第2四半期決算テレフォンカンファレンス

2020年10月30日

登壇

梅原：定刻となりましたので、日本酸素ホールディングス、2021年3月期、第2四半期の決算概況に関するテレフォンカンファレンスを開始いたします。私は日本酸素ホールディングスのIR部長の梅原と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速、説明に入ります。本日の説明は当社のホームページに掲載しております、決算補足資料に沿って進めさせていただきます。お手元にお持ちの方は、その資料をご覧ください。

まず事業環境について触れますと、前回7月に比べ新型コロナウイルスの感染症の拡大している国が多くあります。そういった中、当社グループにおいては現時点で産業ガスの生産・供給等について大きな支障が出ているところはありません。しかしながら前回は申し上げましたとおり、この感染症の拡大の影響で進出国および地域の景気低迷、生産活動の減退の影響というものを当社グループも受けております。

既に数字をご覧になっている方もいらっしゃるかとは思いますが、そうはいいながらも第1クォーターに比べると第2クォーターのほうはその影響も緩和していると感じております。

1-1. 業績概要

単位：億円	20/3月期 2Q実績 利益率	21/3月期 2Q実績 利益率	前年同期比 増減率	21/3月期 通期予想 (5/12発表) 利益率
売上収益	4,228	3,845	-383 -9.1%	8,300
コア営業利益	454 10.8%	367 9.6%	-87 -19.2%	820 9.9%
非経常損益	12	-0	-12	-
営業利益	467 11.1%	366 9.5%	-101 -21.6%	820 9.9%
金融損益	-59	-58	+1	-145
税引前四半期利益	408	308	-100	675
法人所得税	-121	-92	+29	-215
四半期利益	287	215	-72	460
(四半期利益の帰属)				
親会社の所有者に帰属する四半期利益	277 6.6%	210 5.5%	-67 -24.3%	440 5.3%
非支配持分に帰属する四半期利益	9	5	-4	20

● 適用為替レート（期中平均レート）

単位：円	USD (米ドル)	EUR (ユーロ)	AUD (豪ドル)
2020年3月期 2Q	108.67	120.91	74.75
2021年3月期 2Q	106.32	121.66	73.91



3

3 ページの状況、業績概要について説明をいたします。

売上収益は 3,845 億円で、前期比マイナス 383 億円。マイナス 9.1%の減収となりました。前期と比較した為替の換算レートによる影響額は、24 億円になります。この影響を除くと 359 億円の減収となります。なお為替の換算レートによる影響につきましては、米ドル、豪ドルに対する円高の影響がありました。米ドルで約 21 億円、豪ドルで 1 億 3,000 万円ということです。またユーロにつきましては円安の影響が出ておりまして、こちらはプラス 5 億円ございました。

次にコア営業利益ですが、367 億円で前期比マイナス 87 億円。マイナス 19.2%の減益となりました。こちらの為替換算の影響額は、マイナス 2 億円です。この影響を除くと 85 億円の減益となります。

非経常損益ですが、当四半期での計上はマイナス 1 億円未満でした。よってこの非経常損益を含んだ営業利益は、366 億円となり、前期比マイナス 101 億円。マイナス 21.6%の減益となりました。

金融損益はマイナス 58 億円計上されておりまして、前期比で 1 億円減少しております。

また親会社所有者に帰属する四半期利益は 210 億円で、前期比マイナス 67 億円。マイナス 24.3% の減益となり、全体を通じまして大きな減収減益となっております。

1-2. セグメント別業績：国内ガス事業

単位：億円		20/3月期 2Q	21/3月期 2Q	増減額	増減率	
売上収益	パッケージ	セパレートガス 他	73	64	-9	-12.1%
		パッケージ 小計	73	64	-9	-12.1%
	バルク	セパレートガス	243	221	-22	-9.4%
		炭酸ガス	119	111	-8	-6.8%
		ヘリウム	21	25	+4	+18.8%
		その他ガス	50	42	-8	-15.5%
		バルク 小計	435	400	-35	-8.0%
	オンサイト	セパレートガス	368	321	-47	-12.8%
		その他ガス	33	32	-1	-5.4%
		オンサイト 小計	402	353	-49	-12.2%
		LPガス	134	105	-29	-21.4%
		特殊ガス	127	129	+2	+1.1%
		小計	1,173	1,053	-120	-10.2%
	機器・工事 他	ガス関連・プラント 他	369	321	-48	-12.9%
エレクトロニクス関連		71	89	+18	+25.3%	
溶接・溶断関連		125	106	-19	-15.3%	
小計		566	517	-49	-8.7%	
	売上収益 合計	1,740	1,571	-169	-9.7%	
	セグメント利益	123	114	-9	-6.8%	

売上収益増減要因

- ・バルク・オンサイト（セパレートガス）：
製造業全般で需要が大きく減少
- ・機器・工事 他（エレクトロニクス関連）：
半導体メーカー向け機器・設備工事の計上

セグメント利益増減要因

- ・バルクでは、主にセパレートガスの減収による減益
- ・燃料価格下落によるコスト低減
- ・エレクトロニクス機器・工事での増収による増益
- ・事業外取引から生じた一過性収益の計上

5

続きまして各セグメントの状況を説明いたします。

まず国内ガス事業についてですが、資料の 5 ページをご覧ください。

売上収益は 1,571 億円で、前期比マイナス 169 億円。マイナス 9.7% の減収となりました。

増減要因ですが、パッケージガス、マイナス 9 億円。バルクではマイナス 35 億円の減収です。国内製造業の需要は復調の兆しはあるものの、鉄鋼、非鉄、輸送機器、金属加工、化学など全般的に弱く、酸素、窒素、アルゴン、炭酸ガスともに減少いたしました。

オンサイトではマイナス 49 億円の減収となりました。需要面で製鉄、特殊鋼、非鉄、化学、そういった向けの需要の減少の影響によるものです。

また LP ガスはマイナス 29 億円の減収です。輸入価格に連動し、販売価格が下落したことに加え、販売数量も減少しており、減収となりました。

特殊ガスはプラス 2 億円の増益です。メモリー、CMOS センサーでの需要は堅調でしたが、そのほか電子関連、大型液晶、ソーラーパネル、そういった向けの特種ガスについては軟調となりました。

ガス関連・プラントでは前期に計上された大型案件の剥落もあり、マイナス 48 億円の減収です。エレクトロニクス関連では半導体向けの工事が堅調に推移いたしまして、また MOCVD 装置の販売もございました。したがってプラス 18 億円の増収となっております。溶接・溶断関連では市況が全般的に軟調でして、マイナス 19 億円の減収です。

次にセグメント利益ですが、114 億円で前期比マイナス 9 億円、マイナス 6.8%の減益となりました。

増減要因ですが、電力コスト、燃料調整費の低下というところで、前期比でプラス 3 億円の増益となっております。しかしながらパッケージ、あるいはバルクでは価格改定の効果というものも含まれてはいるのですが、国内製造業の大幅な需要減と生産コスト増などの影響で、マイナス 10 億円の減益となりました。

一方、炭酸ガスでは外食向けの減収はございましたが、ドライアイスの採算改善もありまして、前期比では横ばいというかたちになっております。

続いてオンサイトでは、前期に続きまして製鉄所向けの減収に加え、特殊鋼向けの減収もあり、マイナス 6 億円の減益となっております。

LP ガスでは需要減に加えて輸入価格の下落の影響による減収がありましたが、損益としては前期並みの横ばいとなっております。

また特殊ガスではメモリー向けの需要が堅調に推移いたしました。そのほか液晶、ソーラー、電子関連の需要はマイナス、減の方向にありまして、損益としては 1 億円の増益に留まっています。

続いてガス関連・プラントでは、医療関連での特需がございましたが、前期大型プラント、これは産業ガスのほうになりますけれども、の剥落がありまして、全体としてはマイナス 3 億円の減益となっております。続いてエレクトロニクス関連の機器・工事につきましては 4 億円の増益となっております。また溶接・溶断関連、こちらは減収による減益ということで、マイナス 3 億円減益出ております。

またこの 2 クォーターには一過性の収益が含まれておりまして、経費の減っているものと合わせて 5 億円ほど増益のほうに振れております。

国内事業は以上になります。

1-2. セグメント別業績：米国ガス事業

単位：億円				20/3月期 2Q	21/3月期 2Q	増減額	増減率
売上収益	ガス	パッケージ	セパレートガス 他	232	201	-31	-13.2%
			パッケージ 小計	232	201	-31	-13.2%
		バルク	セパレートガス	186	165	-21	-10.9%
			炭酸ガス	128	118	-10	-8.0%
			ヘリウム	26	35	+9	+32.5%
			その他ガス	50	57	+7	+15.0%
		バルク 小計	391	377	-14	-3.6%	
		オンサイト	セパレートガス	44	46	+2	+5.6%
			その他ガス	70	56	-14	-18.9%
			オンサイト 小計	114	103	-11	-9.4%
	LPガス			15	13	-2	-11.2%
	特殊ガス			32	32	-0	-0.7%
	小計			787	729	-58	-7.3%
	機器・工事 他	エレクトロニクス関連		23	30	+7	+31.5%
		溶接・溶断関連		179	152	-27	-14.9%
小計		202	182	-20	-9.6%		
売上収益 合計				989	912	-77	-7.8%
セグメント利益				117	96	-21	-18.0%

※為替換算による影響：売上収益 ▲21.3億円 セグメント利益 ▲2.5億円

売上収益増減要因

- ・パッケージ・バルク：製造業全般で需要が大きく減少
- ・ヘリウム：価格改定効果による増収
- ・オンサイト：供給先の稼働低調による減収
- ・溶接・溶断関連：自動車・建設向け需要軟調による減収

セグメント利益増減要因

- ・バルクでは、主にセパレートガスの減収による減益
- ・パッケージガス、溶接・溶断関連での減収による減益
- ・事業外取引から生じた一過性収益の計上及び前期分割落
- ・合理化対応

6

次に米国ガス事業の説明をいたします。資料の6ページです。

米国ガス事業の売上収益ですが912億円で、前期比マイナス77億円。マイナス7.8%の減収となりました。為替による影響はマイナス21億円で、この影響を除いた事業では56億円の減収となります。

決算補足資料の商品別売上収益には、為替による影響が含まれていますが、為替影響を除いた商品別の前期比増減の額を申し上げます。

パッケージガスはマイナス26億円、バルクはマイナス6億円、オンサイトはマイナス8億円、LPガスはマイナス1億円、特殊ガスは横ばい、機器・工事ではエレクトロニクス関連でプラス8億円、溶接・溶断関連はマイナス23億円となっております。

パッケージガスでは第1クォーターに続いて、自動車輸送機器向けや金属加工の需要が大幅に減退いたしました。

バルクの6億円の内訳ですけれども、セパレートガスではマイナス16億円。炭酸ガス、ドライアイスではマイナス7億円ですが、いずれのガスも1クォーターから2クォーターにかけては復調

傾向です。またヘリウムでは価格改定の効果もありまして、プラス9億円。またその他のガス、水素などが含まれますけれども、こちらは8億円の増収となっております。

続いてオンサイトですけれども、こちらはセパレート、あとHyCO（注水素と一酸化炭素をオンサイトで供給する事業）も含めたガス全般的な需要減退というところで、前期比でマイナス8億円の減収となっております。

エレクトロニクス向けの特種ガスは、前期比で横ばい。同じくエレクトロニクス向けの機器・工事はプラス7億円の増収です。

溶接・溶断関連の販売は自動車、建設関連の需要減によりまして、マイナス23億円と大幅に減収となっております。

続いてセグメント利益ですが、96億円で前期比マイナス21億円。マイナス18%の減益となりました。為替による影響額はマイナス2億円で、その影響を除きますとマイナス19億円の減益となります。

前期比較の内訳ですが、まず前期には2クォーターのときに一過性の収益として13億円が昨年計上されておりましたので、その剥落が含まれております。

また、バルク、パッケージの内訳については、2クォーターにかけて需要は立ち直りつつありますが、1クォーターのコロナによる経済減速の影響を大きく受けておりまして、セパレートガスでマイナス6億円、ハードグッズを含めたパッケージ関連、マイナス9億円、炭酸ガスでマイナス1億円の減益となっております。一方ヘリウムは価格改定が進んでおりまして、プラス4億円の増益となっております。オンサイトについてはマイナス2億円の減益。機器関係ではエレクトロニクス向けでマイナス1億円の減益です。

コスト面でも強力な合理化を進めておりまして、こちら4億円ほどの収益の貢献、プラスで出ております。

また、今期新たに一過性の計上がございまして、6億円ほど一過性利益が出ております。

1-2. セグメント別業績：欧州ガス事業

単位：億円				20/3月期 2Q	21/3月期 2Q	増減額	増減率
売上収益	ガス	パッケージ	セバレートガス 他	212	179	-33	-15.6%
			パッケージ 小計	212	179	-33	-15.6%
		バルク	セバレートガス	194	172	-22	-11.2%
			炭酸ガス	130	115	-15	-11.4%
			ヘリウム	40	35	-5	-12.3%
			その他ガス	34	33	-1	-2.9%
			バルク 小計	399	357	-42	-10.7%
		オンサイト	セバレートガス	114	95	-19	-16.4%
			その他ガス	18	17	-1	-8.3%
			オンサイト 小計	132	112	-20	-15.2%
		特殊ガス	33	31	-2	-5.2%	
		小計	779	681	-98	-12.5%	
	機器・工事 他	ガス関連・プラント 他	58	52	-6	-9.0%	
		溶接・溶断関連	15	13	-2	-10.6%	
		小計	73	66	-7	-9.3%	
	売上収益 合計	852	748	-104	-12.3%		
	セグメント利益	132	86	-46	-34.6%		

※為替換算による影響：売上収益 +5.2億円 セグメント利益 +0.8億円

※今期に商品集計区分を見直したため、上記2020年3月期2Q実績で表示している業績情報は前年同期の開示情報と異なります。

売上収益増減要因

- ・パッケージ：主にイタリアでの冷媒事業（次世代冷媒）の販売軟調に加え、セバレートガスを中心に減収
- ・バルク・オンサイト：製造業全般で需要が大きく減少（新型コロナウイルス感染症拡大による業績影響は大）

セグメント利益増減要因

- ・バルク・パッケージほか全般で大幅な減収による減益
- ・冷媒事業（次世代冷媒）の販売軟調による減益
- ・バルクにおける価格改定効果による増益

7

次に欧州事業の業績をご説明いたします。資料の7ページをご覧ください。

欧州については早い段階から新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けており、欧州ガス事業の中心的な市場でもあるスペインやイタリアで、大きな影響を受けております。欧州事業の売上収益は748億円、前期比マイナス104億円、マイナス12.3%の減収となりました。為替による影響はプラス5億円で、この影響を除いた事業ではマイナス99億円の減収となります。

決算補足資料の商品別売上収益には為替の影響が含まれておりますので、為替影響を除いた商品別を前期比増減で申し上げます。

パッケージガスはマイナス33億円、バルクはマイナス45億円、オンサイトはマイナス21億円、特殊ガスはマイナス2億円。機器・工事ではガス関連などでマイナス6億円、溶断・溶接関連はマイナス2億円となります。

パッケージガスの中に含まれているものとしましては、イタリアで行われている冷媒事業、次世代代替フロンへの切替えの需要が低迷していることで、影響を受けております。

バルクガスでは全体的な需要減というものがございまして、内訳としてはセパレートで23億円、炭酸でマイナス16億円、ヘリウムでマイナス5億円となっております。

ただ、こちらも米国同様、第1クォーター、第2クォーターを比較した場合には第2クォーターでは復調の兆しは見られていることを申し添えておきます。

また、オンサイトにかけて第2クォーター戻りつつありますけれども、主に鉄鋼向けの需要減ということでマイナス21億円。特殊ガスは主に車載向けのエレクトロニクスの需要減でマイナス2億円、プラント・ガス関連機器はマイナス6億円、溶断・溶接関連はマイナス2億円となりました。

続いてセグメント利益ですが、86億円、前期比マイナス46億円。マイナス34.6%と大幅な減益となっております。為替による影響はプラス1億円で、為替影響を除くと47億円の減益となります。

電力コストの影響や価格改定の効果など含まれておりますけれども、減益の要因はやはり新型コロナウイルスの感染症拡大による、産業全体の需要減による販売数量の減少が大きな要因となっております。

1-2 セグメント別業績：アジア・オセアニアガス事業

単位：億円				20/3月期 2Q	21/3月期 2Q	増減額	増減率
売上収益	ガス	パッケージ	セバレートガス 他	18	16	-2	-8.9%
			パッケージ 小計	18	16	-2	-8.9%
		バルク	セバレートガス	84	70	-14	-16.1%
			炭酸ガス	8	7	-1	-7.9%
			ヘリウム	27	26	-1	-6.1%
			その他ガス	13	12	-1	-7.5%
		バルク 小計	134	117	-17	-12.6%	
		オンサイト	セバレートガス	18	16	-2	-8.3%
			オンサイト 小計	18	16	-2	-8.3%
			LPガス	79	76	-3	-4.5%
		特殊ガス	131	154	+23	+17.2%	
		小計	382	381	-1	-0.3%	
	機器・工事 他	ガス関連・プラント 他	81	69	-12	-14.5%	
		エレクトロニクス関連	28	30	+2	+7.7%	
		溶接・溶断関連	23	21	-2	-10.2%	
		小計	133	121	-12	-9.0%	
	売上収益 合計	515	502	-13	-2.6%		
	セグメント利益	53	56	+3	+5.5%		

※為替換算による影響：売上収益 ▲7.6億円 セグメント利益 ▲0.6億円

売上収益増減要因

- ・バルク：フィリピンでは都市封鎖の影響で、需要が大幅に減少し、出荷数量減。その他の地域も同様に減収
- ・特殊ガス：中国・台湾での電子材料ガスの出荷は好調

セグメント利益増減要因

- ・中国・台湾での電子材料ガスの増収による増益
- ・豪州でのLPガス事業の採算性改善
- ・東南アジア全般での減収による減益

8

続きましてアジア・オセアニアのガス事業について説明いたします。

資料の8ページをご覧ください。アジア・オセアニアのガス事業も、全般的に1クォーターの新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を受けておりますが、産業ガスの分野は復調の傾向は見られております。また東アジアでのエレクトロニクス向けの需要は新型コロナウイルスの影響を受けずに堅調に推移しております。

売上収益ですが502億円で、前期比マイナス13億円。マイナス2.6%の減収となりました。為替による影響はマイナス8億円で、この影響を除いた事業ではマイナス5億円の減収となります。

同じく決算補足資料の商品別の売上収益では、為替による影響も含まれておりますので、為替影響を除いた商品別の前期比増減を申し上げます。

パッケージはマイナス1億円、バルクはマイナス14億円。オンサイトはマイナス1億円。LPガスはマイナス2億円。特殊ガスはプラス24億円。ガス関連・プラント他ではマイナス10億円。エレクトロニクス機器・工事でプラス1億円。溶接・溶断関連はマイナス2億円となります。

バルクのマイナス 14 億円の内訳ですが、セパレートガスはタイ、フィリピン、オーストラリア、ベトナムなどで需要が落ち、マイナス 12 億円の減収。炭酸ガスもマイナス 1 億円。ヘリウムはインドでの販売も回復基調となっております、横ばいとなっております。

LP ガスにつきましてはオーストラリアで主に CP 価格の下落により、販売価格まで反映しているため、2 億円の減収となっております。

特殊ガスでは半導体市況の堅調を受け、需要が上がっております。

地域別には中国でプラス 20 億円、シンガポールでプラス 3 億円の増収。台湾もプラス 6 億円の増収。韓国がマイナス 3 億円の減収。その他マイナス 2 億円の減収となっております。

ガス関連・プラントでは韓国でのスポット工事があったものの、シンガポール、マレーシア、Leeden NOX での防火設備が低調であったところもありまして、マイナス 10 億円の減収となっております。

エレクトロニクスの関連機器・工事は、台湾での工事が進行基準ではございますがプラス 1 億円の増収となっております。溶接・溶断関連ではシンガポールでの建設活動停止、これはコロナの影響ですけれども、受けまして、マイナス 2 億円となっております。

次にセグメント利益ですが、56 億円で前期比マイナス 3 億円、プラス 5.5%の増益となっております。為替による影響はマイナス 1 億円ということで、影響を除いた場合でもプラス 4 億円の増益となっております。

中身のお話をしますと、国ごとでいきますが、Leeden NOX、シンガポールでは減収による減益ということでマイナス 2 億円。フィリピンでマイナス 2 億円。タイでマイナス 1 億円の減益となりました。またベトナム、インド、中国の産業ガスについては、ほぼ横ばいとなっております。オーストラリアのスパガスでは、前期比プラス 2 億円。LP ガスの仕入れ価格の下落の影響はあるんですけれども、利益に対しての貢献を維持しております。

エレクトロニクス関連では特殊ガスについて回復基調にございまして、プラス 7 億円。こちらは機器・工事も含んだものとなっております。

1-2. セグメント別業績：サーモス事業

単位：億円		20/3月期 2Q	21/3月期 2Q	増減額	増減率
売上収益	国内	114	96	-18	-15.9%
	海外	16	14	-2	-11.5%
売上収益 合計		130	110	-20	-15.4%
セグメント利益		41	21	-20	-48.9%

※為替換算による影響：売上収益 ▲0.5億円 セグメント利益 ▲0.1億円

売上収益増減要因

- ・国内：1Q期間の外出・店頭営業活動の自粛による販売機会の逸失で、出荷数量減。その一方、在宅の巣籠もり需要によりフライパン・タンブラーは堅調
- ・海外：各地域で出荷数量が減少したことで減収

セグメント利益増減要因

- ・国内：新学期や行楽シーズンの販売機会を活かせず、主力のケータイマグ等では大幅な減収による減益
- ・海外：生産工場の稼働調整に加え、持分法適用会社の販売は低調

9

続いてサーモス事業について説明いたします。資料の9ページです。

売上収益は110億円で、前期比マイナス20億円。マイナス15.4%の減収となりました。為替による影響はほぼございません。

国内事業ではマイナス18億円の減収となっております。新型コロナウイルスの感染症拡大の影響で、主力製品であるスポーツボトル、携帯マグはゴールデンウィークの需要を失い、また海外へのお土産として利用されるインバウンドの需要も蒸発しております。一方で巣籠もり消費といわれる、家庭内で利用されるフライパン、タンブラー、そういったものの需要が増えておりまして、このカテゴリーでは好調に推移しております。

海外では韓国での日韓関係の問題で販売環境が変化していることに加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も重なりまして、またマレーシア、フィリピンでの生産工場ではロックダウンによる工場の停止ということですね。今は回復しておりますけれども、そういった影響も受けております。

また国内および欧米、中国、アジアの市場向けのグループ会社の出荷も軟調に推移したというところで、マイナス 2 億円の減収となっております。

続いてセグメント利益ですが、21 億円で、前期比マイナス 20 億円、マイナス 48.9%の減益となりました。為替による影響はほぼございません。

国内では減収によりまして、マイナス 6 億円の減益となっております。海外では工場の生産調整なども含めまして、マイナス 4 億円の減益となりました。

また持分法適用の持分法利益が、マイナス 10 億円の減益となっております。

以上、2021 年 3 月期、第 2 四半期の業績に関する説明になります。

2 - 1. 2021年3月期 業績予想概要

単位：億円	20/3月期 通期実績 利益率	21/3月期 通期予想 利益率	前期比 増減率
売上収益	8,502	8,300	-202 -2.4%
コア営業利益	903 10.6%	820 9.9%	-83 -9.2%
非経常損益	35	-	-35
営業利益	939 11.0%	820 9.9%	-119 -12.7%
金融損益	-147	-145	+2
税引前利益	791	675	-116
法人所得税	-240	-215	-25
当期利益	550	460	-90
(当期利益の帰属)			
親会社の所有者に帰属する当期利益	533 6.3%	440 5.3%	-93 -17.5%
非支配持分に帰属する当期利益	16	20	+4

- 2020年5月12日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っていません。
- 適用為替レート（期中平均レート）

単位：円	USD (米ドル)	EUR (ユーロ)
2021年3月期 想定	108	120
2020年3月期 実績	108.95	120.85



最後、2021 年 3 月期の通期の予想についてご説明いたします。

まずは連結通期の業績予想ですけれども、資料の 10 ページをご覧ください。

環境認識につきましては、各国ごとに状況は異なりますが、経済活動が再開されつつある一方、世界各国において新型コロナウイルスの感染の拡大は継続しており、その収束は見通せない状況かと思えます。

そういった中、今回当社は見通しにつきましては前回の5月12日決算短信で公表した通期の全社の見通しからは変えてございません。売上収益は8,300億円で、前期比マイナス202億円、2.4%の減収です。

為替レートは米ドルで108円、ユーロで120円で計算しております。

またコア営業利益ですが、820億円で前期比マイナス83億円。マイナス9.2%の減益です。前回同様、非経常損益はこの下期での計上で予定しているものはございません。

営業利益は820億円で、前期比マイナス119億円、マイナス12.7%の減益となります。

2-1. 2021年3月期 業績予想概要

【売上収益】

単位：億円	20/3月期 通期実績	21/3月期 通期予想	増減額	増減率
国内ガス事業	3,561	3,560	-1	-0.0%
米国ガス事業	1,988	1,920	-68	-3.5%
欧州ガス事業	1,655	1,530	-125	-7.6%
アジア・オセアニアガス事業	1,045	1,030	-15	-1.5%
サーモス事業	251	260	+9	+3.5%
合計	8,502	8,300	-202	-2.4%

【営業利益】

単位：億円	20/3月期 通期実績	21/3月期 通期予想	増減額	増減率
国内ガス事業	287	312	+25	+8.6%
米国ガス事業	222	163	-59	-26.8%
欧州ガス事業	248	198	-50	-20.3%
アジア・オセアニアガス事業	99	103	+4	+3.5%
サーモス事業	72	63	-9	-12.8%
消去又は全社	-26	-19	+7	-
コア営業利益 計	903	820	-83	-9.2%
非経常損益	35	-	-35	-
営業利益	939	820	-119	-12.7%

● 2020年7月30日に公表いたしましたセグメント別業績予想から修正は行っておりません。



次の11ページにございます各セグメント別の業績予想につきましても、こちらは7月30日に開示した内容から変更はございません。

セグメントごとの業績ですが、国内ガス事業は売上収益で 3,560 億円、コア営業利益は 312 億円。米国ガス事業は売上収益で 1,920 億円、コア営業利益は 163 億円。欧州ガス事業では売上収益は 1,530 億円、コア営業利益は 198 億円。アジア・オセアニアのガス事業、売上収益は 1,030 億円、コア営業利益は 103 億円。サーモス事業では売上収益は 260 億円、コア営業利益は 63 億円としております。全社消去を 19 億円マイナスを入れまして、コア営業利益の合計は 820 億円となります。

また今回の業績予想に基づく経営指標につきましても、前回発表した 5 月 12 日時点の公表データからの変更はございません。以上、私からの説明になります。

質疑応答

司会：梅原部長、ありがとうございました。それでは、これから質疑応答の時間に移りたいと思いますが、その前に2点、皆様にお願いがございます。本日のご質問は一通一答形式でお受けいたしたく存じまず。恐れ入りますが、ご協力いただけますと幸いです。

また、ご質問される方はお名前とそれから、ご所属の会社名をおっしゃっていただきますよう、お願いいたします。

榎本（BofA メリルリンチ日本証券）：榎本と申します。

梅原：はい。こんにちは。よろしくお願いします。

榎本：はい。よろしくお願いします。3点ありまして、1点目が今回、会社計画変えていらっしゃるんですが、セグメントごとに見るとかなり強弱感があると思うので、もしよろしければ各セグメントごとに計画対比どうかという見方を教えてください。

あと、できればもともと期初計画で、下期以降は例えば、産業ガスでほぼ前年同期並になるという、確かご予想だったと思うのですが、それと比べてどうだったかというところも教えてください。

梅原：はい。前回、これまでの予想の中での進捗というか、程度感でいきますと、すでに2クォーターまでの数字が出ている中で、皆さんもご認識かもしれませんが、国内ガス事業に関しては、少し予想が高めに出ているかなと。一方、アメリカに関しては今の実績からすると、少し予想が低くなっているのかなというところは認識をしております。それ以外の地域に関しては、おおよそ想定範囲内なのかなという認識はあります。

ただ、実際、この先がどうなるのかということ考えた際に、今のコロナの状況が経済にどういふふうに影響してくるのかということからは、なかなか良くも悪くも読みにくいという状況があり、今回は目標を据え置かせていただきました。

榎本：期初計画の産業ガス及びハードグッズのところ、3Q以降、見通しフラットになるという話ですが、フラットにはなっていないのですよね。

梅原：そうですね。実際の実績を見ると、やはりそこまで、まだ3クォーター以降戻るといふ状況にはなっていないで、当初我々が想定していた環境とは少し違っている部分はある。戻りつつある

環境というのは、先ほど私の説明でも言っていました、その先、あるいは当初想定していたというところではやはり見えにくい状況であると認識しています。

榎本：二つ目がアメリカの事業なのですが、かなり回復が第2四半期顕著に出ていまして、たぶん一過性を除くと、もう year on year で増益ぐらいにまでなっていると思うのですが。その理解でいいかという点と、あとなぜこんなに回復が強くて、しかもライバルメーカーが値上げまで発表しているのですが、その価格の状況も教えてください。

梅原：アメリカに関しては、確かに非常に一過性のものがあるとはいつつも、非常に良く出ているという面はございます。いろいろな要因はあるのですが、やはり価格改定については、同業が出している話もありましたが、当社もリリースは出しておりませんが、そこに追従する形で価格改定のアクションを起こしております。

あとは、例を挙げると、例えばヘリウムなどもグローバルのホールセールなどが伸びています。バルクに関しても、コロナの底のところからすると回復している局面というのは、他のエリアよりも早いというところは実績としてはあります。

ただ、この先の景気というのはやはり、なかなか分からないなという部分がございます。足元の状況から急に何か悪くなるというものを、我々が認識して、業績を変えていないとか、そういうことは特にございませんので、ご認識のとおりでいただけたらと思います。

榎本：最後に欧州事業について教えていただきたいのですが。もし可能でしたら、地域別の売上の伸びがどうなっているか、地域ごとのご解説をお願いできればと思います。

梅原：はい。売上の話になりますが、スペインで、一番そういう意味では影響を受けやすいところは、やはり、スペイン、イタリア、ドイツ。この辺りになりますが、スペインで大体7%から8%ぐらいのマイナスになっております。イタリアではマイナス、同じくやはり7%ぐらいのマイナスになっております。ドイツはマイナス9%。ベネルクスはほぼ前年並みというところですが、北欧がマイナス8%、大体そんな状況です。

今、私が申し上げたのは、第2クォーターのみの7月から9月まで、この3カ月間の去年との比較の数字を申し上げました。

榎本：すいません。そこでスペインとイタリアはもともと第1四半期20%減っていたと思うのですが、冷媒が悪いという話を聞いた割には結構戻っているのですが、その中身を教えてください。

梅原：イタリアは、冷媒の事業、確かにインパクトとしてはあるのですが、もちろんそれ以外の一般の産業ガスのビジネスもございまして、あと医療ですね。医療のビジネスもかなり強力でやって

おりますので。マイナスのインパクトとしては、もちろん冷媒はあるのですが、それ以外のところでは同じように戻ってきているところがあると認識していただければと思います。

榎本：すみません。スペインはいかがですか。

梅原：スペインはやはり大きいオンサイトがございますので、そこの戻り方というところがやはりポイントになると思っております。なかなか去年の暮れぐらいからずっと落ちていたところにコロナが重なって、低調な状況が続いていたのですが、足元では少し戻りつつある状況がございますので、この先まだどうなるか分かりませんが、そこ次第でスペインの業績も少し変わってくるかなとは思っています。

榎本：分かりました。ありがとうございました。

司会：榎本さん、ご質問いただきましてありがとうございます。他にご質問される方、いらっしゃるでしょうか。それでは、ご質問をお願いいたします。どうぞ。

阪口（大和証券）：ありがとうございます。質問2点ございまして、一つ目がアジアの特殊ガスについてです。非常に強い状況かとは思いますが、在庫の、例えば中国等で在庫の積み増し等の動きはあったのか、また、3期以降の見通しについても教えていただければと思います。

梅原：はい。確かに在庫の積み増しの懸念というのはあったのですが、実際、流れを見ていくと、そういう極端な動きというのは見られないと思っております。いろいろな環境の変化でそういった動きというのは可能性としてはあると思いますが、今現時点では安定的に堅調に伸びているという認識です。

この先につきましても、政治的な問題など、いろいろな影響は受けるかと思うのですが、我々としてはどこのユーザーがどうなっても、我々のガスは必ず使っていただけるような戦略を立てて、必ず使っていただける準備をしていくということになります。

阪口：その必ず使われるような準備といいますのは、生産地を分けて、その政策に関わらず供給できるようにすると、そういうような認識でよろしいでしょうか。

梅原：そうですね。もちろん、いわゆる一般的な工業ガスとは違って、工場で作られたものを輸送して、輸出したり、輸入したりということが可能なものですので、作られるもののバランスであったり、プロダクトも考慮しつつ、かつサプライヤーとしてユーザーさん、どこで何が作られるのかというのをしっかり把握して、追従していくというような動きも合わせて取っていきながら、我々の商材を売り込んでいくということになるかと思えます。

阪口：はい。分かりました。ありがとうございます。2点目ですが、価格とエネルギーについてです。先ほど、アメリカについては価格改定を行ったということをお話しいただきましたが、他の地域の価格改定の状況、それからエネルギーコストが特に10月以降、下落しているかどうかについてお聞かせいただけたらと思います。

梅原：はい。アメリカは確かにそういう動きがありました。価格改定は以前から行われておりますので、ヨーロッパにおいても以前に行った価格改定の効果というのは出てきております。数量が増えることで、価格改定の効果というのも増えてくるというところがございますので、需要が早く上がってくるというところで、そこを顕在化していけたらなと思っています。

また、国内でも昨年、価格改定を行っておりますので、その影響というのはまだ数量が戻らないので、顕在化しないですが、数量が戻ってくると、これは我々の中でも見込んでいた利益になっていきますので、数量次第だと思います。

同じくコストに関しても、電力の燃料調整費みたいなものが下がってくれば、我々のコストも下がってくるということで、LNGであったり、石油、原油であったりというところの動向を見ていくと、今国内においてはこの半年ぐらいは下がり基調なのかなとは思っております。なので、ここもどのぐらいの定量的に金額で出てくるのかまでは今申し上げられるような状況ではないと認識しておりますが、実際、そのメリットの部分というのは享受できる部分があるのかなと思っております。

他のエリアに関しては、電力のもともとの単価のベースがやはり、日本ほど高くないので、もちろん、電力が下がることでのメリットはあるのですが、国内ほどのインパクトはないと認識はしております。

阪口：ありがとうございます。追加でちょっと補足的に1点お願いしたいのですが、電力価格等が下がった場合に、つられて価格に対して下げ圧力がかかると、そういったことは現状ないと考えてよろしいのでしょうか。

梅原：そうですね。契約の問題になってくるので、全てが全てそういう電力の増減に影響しないような契約かということ、そういうことはないとは思いますが、ケース・バイ・ケースと思っています。

阪口：大変よく分かりました。ありがとうございます。

司会：阪口さん、ご質問いただきましてありがとうございました。それでは、続いて次の質問に移らせていただきます。ご質問をお願いいたします。

河野：野村証券、河野でございます。よろしくお願いします。

梅原：はい。よろしくお願いします。

河野（野村証券）：第2四半期の利益の改善が結構大きいと見えるのですが、売上は前年の第2四半期まで戻っていないにも関わらず、利益はそれに近いところまで戻っているということなのですが、コア営業利益の変化を要因分解でお伺いしたいと思います。

これは1Qから2Qの変化でお伺いしたいのですが、1Qのコア営業利益、141億円から2Qは227億円。86億円ぐらい改善しているかと思います。これを販売数量の回復要因、それと製品価格の変化による要因、インプットコスト、電力とか、このコスト面での改善要因、要因分解して教えていただけないでしょうか。

梅原：はい。セグメントごとに状況がちょっと違うので、なかなかお答えしにくいところはあるのですが、やはり数量が減っているところで、コストの面ではプラントの固定費負担が残りますので、利益は少し出にくくなるという状況はございます。ちょっと国ごとにその辺の状況というのは違いますので、なかなか数量と単価という関係の中ではちょっと今申し上げることができないかなというところですね。ごめんなさい。

河野：売上が前年に比べれば100億以上押したのに、営業利益がほぼ前年並に戻っているということは、結構コスト面で助けられているのかなという気がするのですが、その認識は正しいのかということと、どのぐらい継続性があるのか。先ほど、製品価格に反映されるのかというご質問もありましたが、このコスト面に助けられている分というのはどのぐらい歩留まるのかと、下期にかけて残っていくのかということをお伺いしたいです。

梅原：そうですね。コストの面ではやはり、電力の単価の影響というのは国内でも出てくるのかなと思っています。一方、価格改定のところは、やはり数量がある程度、伸びてくることで、これまでやってきた価格改定が利益として顕在化してくるかと思っています。そういう意味では、今、値上げをしているアメリカは確かにありますが、売上の面と、コストの面と、両方の面でいい方向に進んでいけばいいかなと思います。やはり数量が出ないと、その利益もなかなか享受できないと思っています。

河野：分かりました。質問もう1点。

梅原：国内に関しては、やはり値上げの話、価格改定の話と、燃調が下がってきているという話と、あとはやはりコストダウン的なことをやはり取り組んでいるというところでは、これはコロナの影響でもありますが、経費も下がってきている部分があるかと思います。

あと一つは、国内に関して言うと、鉄向けの売上が大きく減っているというお話しをオンサイトのところでお話ししましたが、ここは売上としては大きく減っているのですが、もともと製鉄メーカーとと合併で会社を作っていて、我々としては機能分担会社という位置づけで利益をもともと出している状況ではないですので、売上の幅に対して、利益のマイナスのインパクトは国内に関しては少し、緩和されている部分もあると思っています。

河野：分かりました。質問もう1点お願いしたいのですが、今、ヨーロッパでもう1回ロックダウンの動きが広がっていると思うのですが、また4月のようにユーザー業界、工場が止まるような動きが、リスクがあるのかどうか。コロナ対策と経済、生産活動を両立するような方向を、どこの国の政治も目指しているのではないかと思うのですが、この4月のようなことが起こるリスクについて、今どのようにお考えでしょうか。

梅原：そうですね。ここについては全くそういう意味ではどうなるのかというところも、ちょっと我々の今の立場の中で予想するのは難しい状況と思っています。特に日本とヨーロッパとアメリカとアジアとではそれぞれ環境が違いますし、取られる対策も変わってくると思いますので、その辺りはを明確に言えるという状況が今ない中で、足元、着実に事業を進めているというところで

河野：分かりました。ありがとうございました。以上です。

司会：河野さん、ご質問いただきましてありがとうございました。それでは、続いて次の質問に移らせていただきます。それでは、ご質問をお願いいたします。

東（ジェフリーズ証券）：ジェフリーズ、東です。

梅原：はい。よろしくお願いします。

東：サーモスなのですが、これ、この上期悪かったのはしょうがないと思うのですが、これはその、月次とかで見ると戻ってきているのでしょうか。

梅原：そうですね。やはり4月、5月が底になっていて、6月はむしろ4月までの動きの反発があって、飛び抜けて6月良かったです。それ以降はまた落ち着いてはきているのですが、やはり巣ごもりの需要のほう伸びていて、外向けのレジャーというところは、今回、今のこの夏の需要というところでいくと、やはり低調だったのかなと思っています。

東：これはあれですか。6月に戻ったのはpentアップデマンドで戻ったのですが、ここから先はあれですか。やはり今みたいなこういう世の中が続いてしまうと、似たような、あまり強い戻りはここから先もないと思ったほうがいいのか。

梅原：そうですね。環境がやはり変わってきているので、売れる商材が変わってきているというのと、あと今回、ケータイマグであったり、フライパンというところが売れてきているというところがあるのですが、ブランドがやはり浸透してきているという認識があります。もちろんそういう機能面ではスポーツボトルというのもあります。

これからサーモスがどういうふう成長していくかという中では、やはりサーモスというブランドで成長していくという方向も一つあるかと思っておりますので。もちろん、今の状態でスポーツボトルが売れないということはないと思っておりますが、新たな環境でも対応できるような準備というのは、十分できてきているのかなと思っております。

東：なるほど。二つ目がアジアの特殊ガスが結構頑張ったと思うのですが、こちらの持続性というのはこれから先、来年も含めてどんなふうに考えていらっしゃいますか。

梅原：そうですね。半導体の波、サイクルというところにはやはり、我々もそこに沿っていくというか、そこに伴って動いていくということになるかと思えます。

そういった中で今、この先の部分というのがどういうふうに半導体メーカーが変わっていくのかは、やはりそちら、我々としてはその半導体メーカーが求めるスペックのものをしっかり生産して、供給していくという要求にどれだけ着いていけるかになると思えますので。今、その変化がちょうど起ころうとしているというか、なかなか先は読めないところではあるのですが、我々としては先ほどもお話ししたかもしれませんが、今足元の中では大きくマイナスになるような話というのはないので、しっかりユーザーをつかんでいくことに徹していくということになるかと思えます。

東：分かりました。ありがとうございます。

司会：東さん、ご質問いただきましてありがとうございます。お時間が押してまいりましたので、恐れ入りますが、こちらでご質問をお受けする時間を終了させていただきたいと思えます。

これにて、2021年3月期第2四半期決算説明テレフォンカンファレンスを終了させていただきます。本日はお忙しい中、当社のテレフォンカンファレンスにご参加いただきまして、また、多くのご質問をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

梅原：ありがとうございました。

注意事項

本資料は、証券取引上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本説明会および本資料には、将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しが記述されております。これらは現時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断・想定したものであり、実際の業績はさまざまなリスクや不確実性（経済動向、市場需要、為替レート、税制や諸制度などがございましたが、これらに限られません）を含んでおります。

このため、現時点での見込みとは異なる可能性がございますことをお含みおきいただき、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますよう、お願い致します。